

夢窓幼稚園 通信 第10号

2020年 5月 29日

このひと月、毎朝 御室の山を 一時間ほど 散歩するようになり、一歩いっほのひとつひとつの「今」を感じて過ごすひと時を持つことで、自分の内側で起きていることに集中して向き合えました。周囲の世界に出会う度に、私たちは始終そのものたちをイメージし、自分の内側にあらためて生かそうとしているのだと思いました。園の子どもたちも、表出する言葉がゆたかになると、「～みたい!」と目の前のものを何かに例えて話すようになります。また楽しく名前をつけて叫んだりします。

私も 現れるひとつひとつを「～のよう」「～みたい」と想いめぐらし、そして「ひたすら下向き坂」だの「仙人の根っこ道」などと あれこれ名づけて歩いています。

またある時は伝説が浮かんできたり、ある時はその風景や小鳥のさえずりの瞬間が戯曲の一番面であるように思え登場人物として歩いたり...ととにかく外なる世界が内なる心の舞台で跳びはねているのです。

そして私を内側から動かし、今度は外の世界に向けて表現をし始めるのです。

ある日 戻ってみたら、机の上に、いつ記したのが自分でも忘れてしまったメモがあり、こんなふうに書いてありました。

世界ひとめぐり

私の中に世界がみんな生きている
ほら 試してみよう
私が世界をひとめぐりするのには
出かけていくことだけじゃなくて
私の内に世界を感じることも
私が世界を表現することでも
できるんだ!

4月・5月と みんなそろって、庭で小さな月のおまつりをしたり、散歩や遠足に出かけたりできませんでしたが、6月にはしっかり用心しながら 身体を動かす、心をこころがし、それぞれの世界ひとめぐりができますように!と願っています。

自由登園より始め、半ばには家庭訪問、そして1時降園の頃には雨をたのしめるのでしょうか。

わくわく ひとつひとつの時を迎えたいと思います。

園長 弁光 泰雄

〜 昨年の通信を読み返していたら 今回の通信や
動画への思いにつながるかな...と思ひ再掲した。

小高い丘にのぼり景色を眺めると、街の様子が
普段と違って見えてきます。

大地から みどりが湧き出ている...そういう
風景を作り出している働きの方に気づかされます。

母なる大地から地上に向かって、地の冷氣と乾気が
働きかけをすると、植物はみどりの葉や芽を
ひろげ、やがて花を咲かせます。

水と風が働きかけます。

おひさまの光がふり注ぎます。

冷氣と乾気、熱気と湿気とが様々に作用し、
お互いに働き合い、地球の表面は夏ゆたかを
みどりに履かれるのでしょ。

高い丘からの風景の中に、そんな地水火風の
働きのドラマが見渡せます。

そして私たちは その中で生かされていますが、
その4つの働きに深く心に向けると、自分の内にも
植物をゆたかに繁らせる力が、いのちの力として
同じように働いていることが感じられます。

大地の上では4つの力は目に見えるかたちを伴って、
私たちの内側では目に見えない生命力として波打って
います。

丘の上の風景から 人間存在に思いがゆくと、その
景色が内なるものとして思えてきます。

「私」の身体は私の肉体として内側にあると同時に
外なる世界も私の身体のように気がしてくるのです。

世界も人間も魅力的で讚美に値しますが、今の
時代 内なる身体も 外なる第二の身体も愉しさを
求めているのかもしれない。(2019.6月末)